社会資本総合整備計画　　事後評価書

令和08年09月18日

計画の名称	安心して住みやすい魅力ある市街地の整備（防災・安全）		
計画の期間	令和０３年度　～　令和０７年度　(5年間)	重点配分対象の該当	○
交付対象	取手市		
計画の目標	本市では、「とりで未来創造プラン２０２０」（令和2年3月策定）において、「ぬくもりとやすらぎに満ち、共に活力を育むまち　とりで」を実現するためのまちづくり方針の一つとして 「快適で、安心できるまちづくり」を掲げている。 その重点事業の一つである取手駅北土地区画整理事業では、取手駅西口地区の宅地造成や、交通結節点となる取手駅西口駅前交通広場及び主要な道路交通網を整備し、また、ユニバーサルデザインを 基本とした都市基盤整備を推進することにより、快適な居住空間の整備と行動範囲の拡大支援を目指すものである。		

全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）	2,151	A	2,151	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標） 定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値 当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R2		R7
1	取手駅北地区内において、ユニバーサルデザインを基本とした都市基盤整備による歩行者の回遊性の向上を図る。			
	バリアフリー化による歩行者の回遊性の向上 （ペデストリアンデッキ歩行者数／（ペデストリアンデッキ歩行者数＋ペデストリアンデッキと並行する都市計画道路歩行者数））×100	50%	%	55%
2	取手駅北地区内の交通結節機能を改善し、取手駅西口駅前交通広場の安全性の向上を図る。			
	安全性の向上（事故件数の減少）。 〔1-（目標値時点の過去3年の事故件数／現在の事故件数（H29～R1））〕	0%	%	10%

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	○	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

案件番号：　0000778174

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別１	種別２	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市区町村名／港湾・地区名	事業実施期間（年度） R03	R04	R05	R06	R07	全体事業費（百万円）	費用便益比	個別施設計画策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
道路事業	A01-001	街路	一般	取手市	直接	取手市	区画	改築	取手駅北地区（（都）中央町新町線他）	区画整理　A＝6.5ha	取手市	■	■	■	■	■	2,151		―
											小計						2,151		
											合計						2,151		

事　後　評　価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
取手市都市整備課にて事後評価を実施	令和８年度
	公表の方法 取手市ホームページにおいて公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	【バリアフリー化による歩行者の回遊性の向上】 取手駅北土地区画整理事業によるユニバーサルデザインに対応した都市基盤整備が進捗した効果により、施行地区内の都市計画道路（３・４・３７取手西口・白山線）沿いにおけるペデストリアンデッキ歩行者の割合が増加し、整備前と比較して歩行者の快適性・回遊性が向上したことが確認できた。 【安全性の向上（事故件数の減少）】 目標とする事故減少率には至らなかったが、これは都市基盤整備による新たなインフラへの移行期にあたり、駅前交通広場をはじめとする交通形態の変化が一時的に影響したものと考えられる。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	【人身事故件数の減少】 令和７年（１月～１２月）における施行地区内の人身事故件数は１件であり、過去１０年で最少であった。これは新交通広場の整備（令和６年７月供用開始）により、施行地区内の交通環境が改善されたことによる効果と考えられる。 【EV新設によるバリアフリー化推進及び利便性向上】 今回の事業で新設された２台のEVについて、一般車乗降場EVでは722人/12h、デッキ南側EVでは587人/12hの利用者が確認され、特にデッキ南側EVについては高年層の割合が高く、車椅子やベビーカーを含む多くの歩行者に利用されていた。これらのEVの設置により地区内のバリアフリー化が推進され、利便性が向上したと考えられる。 【取手駅東西の歩行者量の増加】 令和７年１１月時点の歩行者量を見ると、令和３年度と比較して取手駅東西方向の歩行者数が増加しており、往来の活性化が図られたといえる。この要因として、新交通広場の歩道拡幅やデッキ改修、EV新設といった歩行者用バリアフリールートを整備したことが考えられる。

○特記事項（今後の方針等）

取手駅北地区では、取手駅北土地区画整理事業による都市基盤整備が進められ、良好な住環境及び高度な土地利用が図られてきた。今後は取手駅周辺のさらなる交通環境改善に向けて、土地区画整理事業地区外における都市計画道路の整備やペデストリアンデッキの延伸工事、市街地再開発事業等の検討を進め、より安全安心で活力と魅力ある中心市街地の形成を図っていく。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	取手駅北地区内における歩行者の回遊性の向上		
	最　終 目標値	55%	都市基盤整備が進捗した効果により、都市計画道路沿いにおけるデッキ歩行者の割合が70%と増加し、目標値を上回る結果となった。
	最　終 実績値	70%	
2	取手駅北地区内における交通事故件数の減少		
	最　終 目標値	10%	事故減少率が目標値を下回った要因として、都市基盤整備による新たなインフラへの移行期にあたり、駅前交通広場をはじめとする交通形態の変化が一時的に影響したことが考えられる。
	最　終 実績値	-23%	